



Keidanren Women's Executive Network

Leadership Mentor Program

例えボールを落としてでも 守備範囲を超えて 「横っ飛び」を心掛けよう!



経団連女性エグゼクティブ・ネットワーク

第6回リーダーシップ・メンター・プログラム

2017年4月21日 東京・大手町 経団連会館

5つのターニングポイント

我々は今、5つの大きな歴史的転換点(ターニングポイント)に立っている。1つ目は地政学リスクの高まりである。米国が内向きになり、EUドリームが揺らぎ、中国・ロシアの覇権主義が台頭するなど、世界のバランスが崩れつつある。2つ目は、格差の拡大、貧困の再生産への懸念である。3つ目はテクノロジーの進化によるBtoCからCtoBへの変化である。消費者一人ひとりのニーズにカスタマイズしたサービス・商品を提供できるかが企業の生き残りのポイントとなっていくであろう。4つ目は金融危機の可能性である。過去10年毎に金融危機が発生している。リーマンショックから9年経ち、どこかにゆがみが堆積していないかという視点でマーケットの数字を見続ける必要がある。5つ目は「人生100年時代」の到来である。長寿化を前提としたビッグピクチャーを描く必要がある。こうした5つ視点で自分の置かれた環境を360度見渡すことが、これからの経営者に求められる。

みずほの目指す姿

金融危機を通じて、規制が強化されるとともに顧客重視の姿勢が求められるよ

うになった。みずほは、銀行だけでなく、信託・証券・資産運用・シンクタンクの総合金融コンサルティンググループを目指す「One MIZUHO戦略」を掲げ、お客様のニーズに寄り添い、潜在的な課題を見つけて明確にコンサルティングするフルサポート体制のビジネスモデルを目指している。

みずほを支える人材の活躍促進

野球の「横っ飛び」のように、例えボールを落としても守備範囲を超えてボールを拾おうとする姿勢を見せた行員に「One MIZUHO カルチャープライズ」という賞を贈っている。つまり、みずほは失敗からの学びを評価するコーポレートカルチャーを醸成している。

みずほを支える人材の活躍促進という観点では、次世代のリーダー育成を目的とした特別な育成プログラムも開始した他、今年4月には34歳の史上最年少の支店長も誕生している。また、私自ら「リーダーシップ10箇条」を作成し、リーダー育成にも力を入れている。強いリーダーには、知的好奇心や人の話を聞く力が求められる。

また、みずほでは、若手、シニア、女性、LGBT等も含めた多様な人材、多様な価値観を持つグループの全役職員に活躍してもらいたい。

Mentor Profile

佐藤 康博氏

(一社)日本経済団体連合会
審議員会副議長(株)みずほフィナンシャルグループ
取締役 執行役社長 グループCEO

1976年東京大学経済学部卒業後、同年入社。2009年みずほコーポレート銀行取締役頭取就任。2011年みずほフィナンシャルグループ取締役社長グループCEO就任後、2013年みずほ銀行取締役頭取を兼務。2014年みずほフィナンシャルグループ取締役執行役社長グループCEO就任(現任)。経団連では、2016年6月に審議員会副議長就任(現任)。

MIZUHO

みずほフィナンシャルグループ

